

## a-2 農業組合、漁業組合との連携による情報収集（長良川鮎）

### 【ヒアリング実施概要】

- 世界農業遺産「清流長良川の鮎」について、漁業関係者が現場で感じている気候変動影響に関する情報を収集。
- 令和2年度岐阜県気候変動適応センター共同研究事業で研究テーマとなった「清流長良川の鮎」についての、暫定的な研究成果(温暖化の影響で下流域において鮎がいない期間が増えることや上流域では友釣りの期間が長くなり、旬が遅れること)を、長良川流域の主要な漁業協同組合(長良川漁協, 長良川中央漁協, 郡上漁協)と小瀬鵜飼の鵜匠(合計約40名)に情報提供・説明した上で、漁業者としての温暖化影響の実感、適応策として有効と考えられる対策、既に実施してきた対策等についてヒアリング。

### 【ヒアリング項目】

- 「近年の鮎漁で感じる気候や気象の変化」「具体的な温暖化影響」「影響と思われる原因」等

### 【実施期間】

- 令和3年10月～令和4年2月

### 【実施者】

- 岐阜県気候変動適応センター
- 岐阜県水産研究所 等

## a-2 農業組合、漁業組合との連携による情報収集（長良川鮎）②

### 【聞き取り結果 概要】

#### ①郡上漁協(参事)

- 20年前は8月半ばにアユの降河が始まった。現在では、10月でも友釣りができる。そういう意味では友釣りの漁期は伸びている。
- 土用隠れは、濁水高水温時に比較的冷たい淵の底にアユが入ってしまい釣れない状態と理解している。2020年は本川で数日くらい、そんな日があった。
- 2021年は8月中旬の出水以降、パタリと大型アユが釣れなくなった。小型アユは釣れ続けた。逆に下流側の関市で大型アユが釣れるようになったと聞いている。

#### ②長良川中央漁協(参事)

- 2021年は早く遡上したアユがコロナ禍の緊急事態宣言などの影響で釣られなかったせいか、全体的に大きかった。冷水病も少なかったようで、このことも影響しているかもしれない。
- 「夏場の水温が上がっていることがアユの分布を制限すること」について下流側でその影響が出始めることは実感している。8月になると、下流で水温が上がったのを嫌がったアユが中央漁協の管内に上がってきていた。最近はもっと上まで上がってしまっているのかもしれない。

#### ③小瀬鵜飼(鵜匠)

- 2020年夏はアユが姿を消してしまい、ほとんど捕れなかった。土用隠れはこれまでも夏場の暑い日にはあったが、まるっきり姿がみえなくなったのは珍しい。水温が高くなってきている影響であると理解した。漁場のすぐ上流に、水田の排水が流れ込んできており、これが影響していると感じている。
- 年6回の御料鵜飼(宮内庁に献上するアユをとる)には、いいアユをとって献上したいと思っているのだが、年々小瀬鵜飼の区間の川底が砂利や砂に覆われることが増えてきている。
- アユは石についた苔(付着藻類)を食むので、砂に覆われてしまうとアユがいなくなる。また、アユが食む苔に砂が混じるとアユのはらわたにも砂が残り、御料鵜飼に献上するアユとして残念でならない。

## a-2 農業組合、漁業組合との連携による情報収集（長良川鮎）③

### 【聞き取り結果 概要】

#### ④長良川漁協(漁師)

- 舟をもって10年がたつが、淵がへっている。瀬が平らになってきており、渇水時には舟で瀬を超えられなくなってきた。
- 温暖化の影響よりも、川の環境の変化によって、「川の生産力(川が魚を養う力)」がおちてきているように感じている。
- 夏場、水温が温かくなるとアユの姿が消える。しかし、雨が降って水位が上昇すると、普段とっているアユとは触り心地の違う魚が上流から降りてくる。しかし、それを取りつくすとまたアユはいなくなる、一度アユがおりてきても、少し雨がふるとまた上流に戻ってしまうこともある。

#### ⑤長良川漁協(漁協事務局)

- 長良川漁協の管内では、淵がなくなっていることが、夏場のアユにも、産卵期のアユにもどちらにも悪影響を及ぼしていることは、漁師たちが実感として感じてきたことと一致している。
- アユが減っていることだけが問題ではない。カワウはアユよりも動きの遅い雑魚をねらうが、雑魚が減ってきたからアユが狙われるようになってしまっている。雑魚が沢山いれば、動きの速いアユはそれほど食害されるものではない。

### 【長良川鮎ヒアリング総括】

ヒアリングしたすべての漁業関係者の間で気候変動の影響は実感されており、気候変動への適応は喫緊の課題といえる。

上流では、漁期の変更や、時期による漁獲量の再調整を望む声も出始めている。明らかに在来アユの産卵降河も遅れていることから、水温上昇の影響が支配的と考えられる。

#### 〈適応策〉

- アユは水温や洪水に合わせてかなり広い範囲を動いており、釣り人がアユのいる場所に合わせて釣り場を変えることができるような仕組みがあるとよい。  
…漁協ごとの釣り券(遊漁証)を共通券にする。(関東的那珂川では釣り券が共通化されている)
- 最近では秋以降もアユが友釣りできる期間が長くなっているが、秋にとれるアユは、料理屋などの旬からはずれてしまっており、値がつかない。秋に沢山とれるアユの価値を高め、どう活かすかも課題。  
…友釣りの初心者向けにアピールしていくという戦略。  
…道の駅等と連携し、観光客にお手軽に長良川の天然アユを食べてもらえるような仕組みづくり。